



2022年夏季ボーナスアンケート調査（宮崎県内） ～インターネットアンケート調査～

当研究所は、宮崎県内における消費動向や生活実感などを探るため、ボーナスアンケート調査を実施している。今回、県内の給与所得者等を対象にインターネットアンケートによる夏季ボーナス調査を実施し、結果をまとめた。

【調査結果の概要】

1. 夏季ボーナスは、全体の67.2%が「支給される」と回答した。増減見込みは「同じくらい」「減りそう」が前年より低下し、「増えそう」が上昇した。
2. ボーナスの見込み額は「10万円以上30万円未満（41.5%）」が最も多い。
3. 使いみちは「貯蓄（71.6%）」、貯蓄の目的は「老後の生活（45.6%）」、貯蓄の方法は「定期性預貯金（52.4%）」が最も多い。
4. クレジット・ローン返済は、「自動車（52.7%）」が最も多い。
5. ボーナスでの購入予定品は「衣料品（48.3%）」が最も多く、買物予定先は「通販・ネット販売（47.5%）」がトップだった。
6. 最近1年間の県外〔九州5市（注1）〕での買物頻度では、回数が「1回」、交通手段では「乗用車」が最も多かった。
7. 今後の旅行・レジャーの行き先は、「九州内（除く沖縄）（61.7%）」が最も多い。
8. 生活状況は「変わらない（62.6%）」が最多で、DI（注2）は「▲18.7」と前年比5.6ポイント（以下「P」）改善したものの、依然マイナスの状況である。
9. 品目別の物価状況DI（注3）は「食品（生鮮食品を除く）（+79.0）」が最も高い。
10. 新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」）の状況下における買物の変化では「必ずマスクを着用して買物をしている（69.1%）」が最も多い。

注1）福岡市、北九州市、大分市、熊本市、鹿児島市の5市

注2）生活状況が「良くなった」割合－「悪くなった」割合

注3）物価が「高くなった」割合－「安くなった」割合

調査の実施要領

調査時期：2022年5月17日（火）～5月23日（月）

調査対象：宮崎県内の給与所得者等

調査方法：インターネットアンケート（マクロミル社）

回答者数：524名

回答者の属性（単位：人、%）

年代別	人数	構成比	世帯別	人数	構成比	性別	人数	構成比	職業	人数	構成比	
20歳代以下	105	20.0	独身	235	44.8	男性	262	50.0	会社員	480	91.6	
30歳代	156	29.8	既婚	子供有り	248	47.3	女性	262	50.0	公務員	44	8.4
40歳代	133	25.4		子供無し	41	7.8	合計	524	100.0	合計	524	100.0
50歳代以上	130	24.8	合計	524	100.0							
合計	524	100.0										

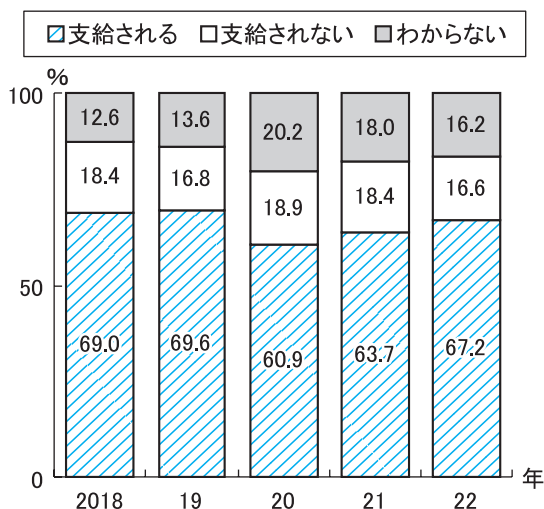
※本レポートの図表は、四捨五入の関係で、内訳の総和と合計が必ずしも一致しない

1. ボーナス支給の有無と増減見込み

(1) 「支給される」が67.2%

夏のボーナスは「支給される」の割合が67.2%と、前年比3.5P上昇した(図1)。「支給されない(16.6%)」「わからない(16.2%)」は前年よりやや低下した。

図1. 夏季ボーナス支給の有無

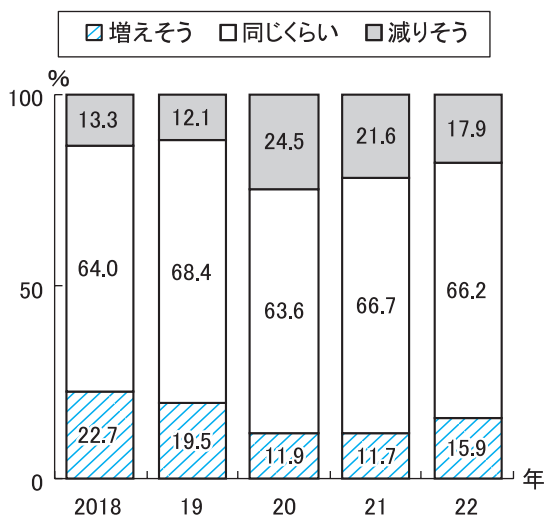


(2) 増減見込みは「同じくらい」が最多

ボーナスの増減見込みは、「同じくらい(66.2%)」「減りそう(17.9%)」「増えそう(15.9%)」となった(図2)。

「増えそう」は前年比4.2P上昇し「減りそう」は同3.7P低下した。

図2. 夏季ボーナスの増減見込み



2. ボーナスの見込み額

「10万円～30万円未満」が最多

ボーナスの見込み額は、全体で「10万円～30万円未満(41.5%)」が最も多く、「30万円～50万円未満(26.7%)」と続いた(図3)。

会社員は、「10万円～30万円未満(45.5%)」が最も多いものの、前年比6.1P低下した(表1)。「30万円～50万円未満」「50万円～70万円未満」「100万円以上」の割合は、前年より上昇した。

図3. ボーナスの見込み額

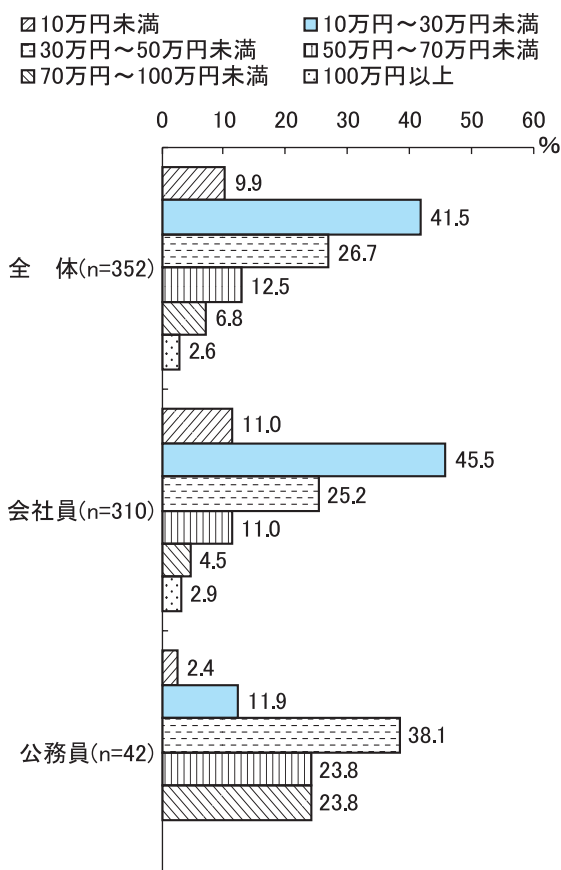


表1. 会社員の見込み額

(単位: %, P)

年	金額	10万円未満	10万円～30万円未満	30万円～50万円未満	50万円～70万円未満	70万円～100万円未満	100万円以上
2022年		11.0	45.5	25.2	11.0	4.5	2.9
2021年		12.7	51.6	21.6	7.1	4.9	2.1
前年比		▲1.7	▲6.1	3.6	3.9	▲0.4	0.8

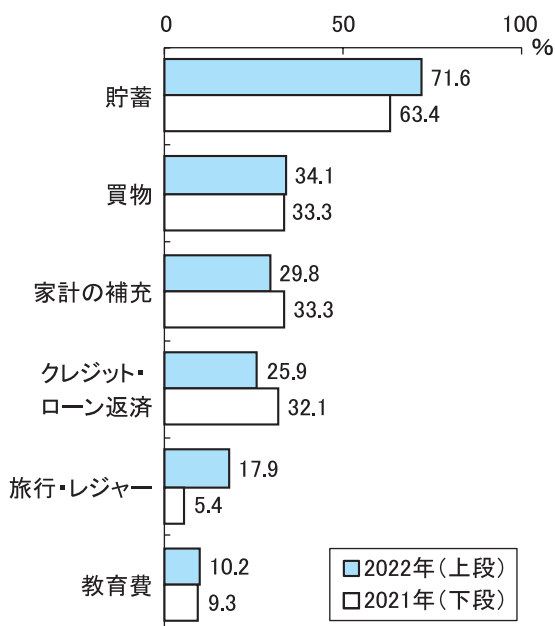
3. ボーナスの使いみち（複数回答）

「貯蓄」が最多

ボーナスの使いみちは「貯蓄（71.6%）」が最も多く、以下、「買物（34.1%）」「家計の補充（29.8%）」「クレジット・ローン返済（25.9%）」と続いた（図4）。

前年比では「旅行・レジャー（+12.5 P）」「貯蓄（+8.2 P）」の上昇が目立った。

図4. ボーナスの使いみち（複数回答）



(1) 「貯蓄」

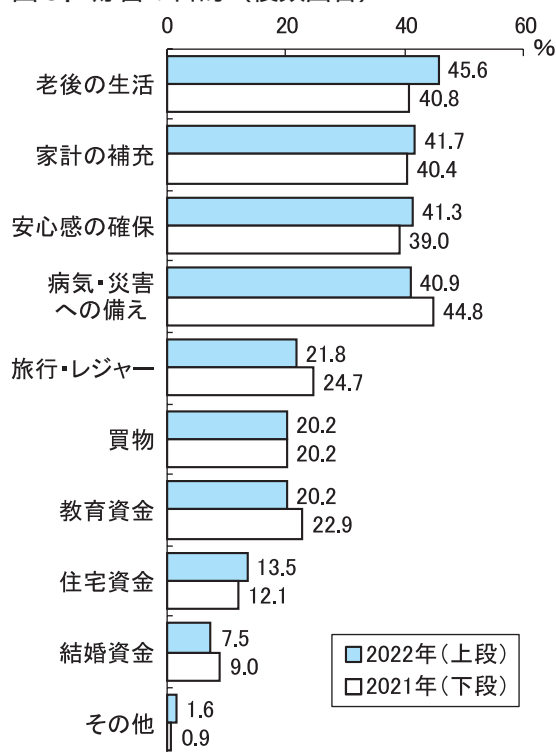
①貯蓄の目的（複数回答）

「老後の生活」が最多

貯蓄の主な目的は「老後の生活（45.6%）」が最も多く、「家計の補充（41.7%）」「安心感の確保（41.3%）」と続いた（図5）。

前年比では、「病気・災害への備え」が3.9 P低下して4位となった一方、「老後の生活」は4.8 P上昇して1位となり、将来に備えて長期的に蓄える意向がみられた。

図5. 貯蓄の目的（複数回答）

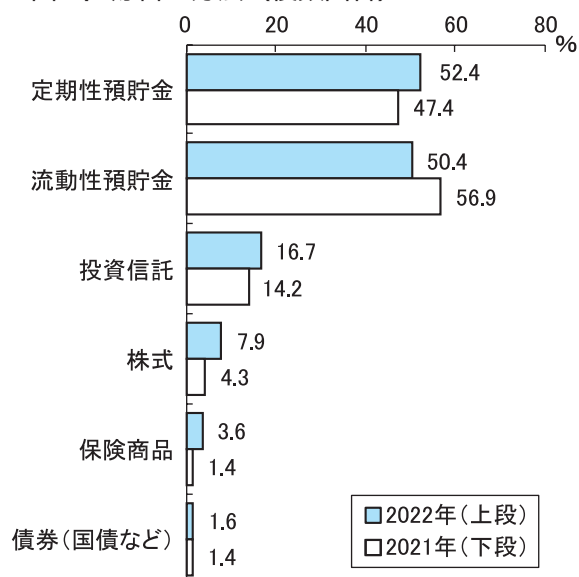


②貯蓄の方法（複数回答）

「定期性預貯金」が最多

貯蓄の方法は、「定期性預貯金（52.4%）」が前年比5.0 P上昇し「流動性預貯金（50.4%）」が同6.5 P低下したことから、順位が入れ替わった（図6）。「株式（7.9%）」は同3.6 P上昇した。

図6. 貯蓄の方法（複数回答）



(2) 「クレジット・ローン返済」

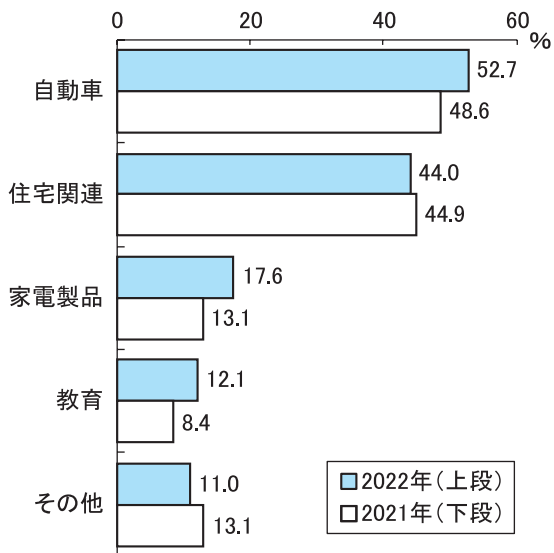
(複数回答)

「自動車」が52.7%

クレジット・ローン返済では「自動車(52.7%)」が最も多く、次いで「住宅関連(44.0%)」となった(図7)。

前年比では「家電製品(+4.5P)」「自動車(+4.1P)」「教育(+3.7P)」がそれぞれ上昇した。

図7. クレジット・ローン返済予定の内容



(3) 「買物」

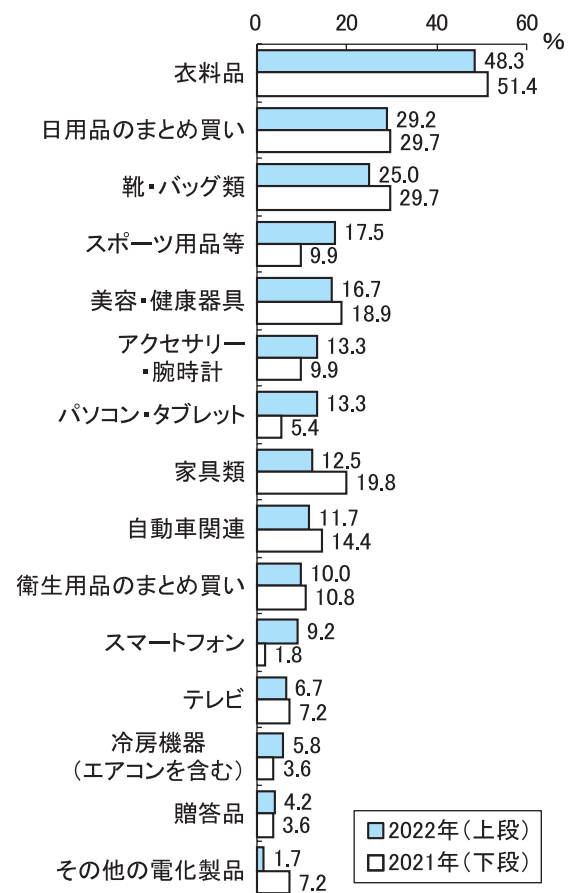
①購入予定品(複数回答)

「衣料品」が最多

購入予定品は「衣料品(48.3%)」「日用品のまとめ買い(29.2%)」「靴・バッグ類(25.0%)」となった(図8)。

前年比では「パソコン・タブレット(+7.9P)」「スポーツ用品等(+7.6P)」「スマートフォン(+7.4P)」が上昇し、「家具類(▲7.3P)」「その他の電化製品(▲5.5P)」「靴・バッグ類(▲4.7P)」は低下した。

図8. 購入予定品(複数回答)



※「スポーツ用品等」は「スポーツ・レジャー・アウトドア用品」の略

※「自動車関連」は、「自動車・バイク・カー用品」の略

②買物予定先の店舗形態(複数回答)

「通販・ネット販売」がトップ

買物予定先の店舗形態では、「通販・ネット販売(47.5%)」が最多で、「ショッピングセンター(大型店)(以下「SC」)(41.7%)」「家電量販店(25.0%)」となった(次頁表2)。

居住地別では、都城市、延岡市で「通販・ネット販売」が最も多く、前年比では都城市が30.3P上昇した。延岡市は「通販・ネット通販」と「SC」が同率(56.3%)となった。宮崎市は「SC(45.7%)」が最も多いものの、前年比2.0P低下した。

表2. 買物予定先の店舗形態 (複数回答)

(単位: %)

買物先 居住地	通販・ ネット販売	S C	家電 量販店	ディスカウ ントストア	デパート
全 体	47.5	41.7	25.0	17.5	18.3
	51.4	45.0	18.9	21.6	17.1
宮崎市	40.0	45.7	37.1	5.7	25.7
	54.5	47.7	18.2	20.5	18.2
都城市	62.1	31.0	17.2	20.7	17.2
	31.8	40.9	22.7	9.1	13.6
延岡市	56.3	56.3	31.3	37.5	12.5
	43.8	37.5	6.3	43.8	12.5

回答者数 120 人 ※上段:2022年 下段:2021年

③買物予定地 (複数回答)

「宮崎地区 (注4)」「都城地区 (注5)」「延岡地区 (注6)」「日南地区 (注7)」は、地元を買物予定地とする回答が最も多く、「小林地区 (注8)」は、「宮崎市」が最も多かった (表3)。

「県外」は、「延岡地区」「小林地区」を除く地区で前年を上回り、コロナ禍によりながらも、感染防止対策の浸透による移動範囲の拡大がうかがえた。

表3. 買物予定地 (複数回答、居住地別)

(単位: %)

買物地 居住地	宮崎市	都城市	延岡市	日南市	小林市	県外
宮崎地区 (注4)	92.3	-	-	-	-	17.9
	98.1	5.6	1.9	1.9	1.9	1.9
都城地区 (注5)	41.2	85.3	-	-	2.9	8.8
	34.8	95.7	-	-	-	4.3
延岡地区 (注6)	39.4	-	54.5	-	-	12.1
	21.7	-	73.9	-	-	13.0
日南地区 (注7)	42.9	28.6	-	71.4	-	14.3
	71.4	28.6	-	57.1	-	-
小林地区 (注8)	71.4	28.6	-	-	57.1	14.3
	100.0	75.0	-	-	25.0	25.0

回答者数 120 人 ※上段:2022年 下段:2021年

注4) 宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡
 注5) 都城市、北諸県郡
 注6) 延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡
 注7) 日南市、串間市
 注8) 小林市、えびの市、西諸県郡

コラム

Q. ボーナスの受給額が増えたら、増額分はどのように使いますか?

増額分の使いみちは「貯める (59.1%)」「一部を使い、残りを貯める (29.3%)」となった (図9)。支出の内容では「旅行」「飲食」「修繕 (家・車)」「家電の購入」等があった。

図9. 増額分の使い道



4. 最近の県外での買物動向

(1) 買物頻度

最近1年間の、県外九州5市への買物頻度は、全ての市で「1回」が最も高かった (表4)。

表4. 県外での買物頻度 (複数回答) (単位: %)

頻度	福岡市	北九州市	大分市	熊本市	鹿児島市
1回	47.7	61.8	46.0	57.6	49.0
	54.4	45.0	52.0	43.8	55.3
2~4回	35.2	26.5	35.0	23.2	30.6
	31.6	35.0	25.3	37.5	27.1
5~9回	8.0	2.9	9.0	9.1	9.2
	5.3	15.0	14.7	10.4	10.6
10回以上	9.1	8.8	10.0	10.1	11.2
	8.8	5.0	8.0	8.3	7.1

回答者数 100 人 ※上段:2022年 下段:2021年

(2) 交通手段

県外九州5市への交通手段は全ての市で「乗用車」が最も多く、前年比でも全市でそれぞれ上昇した (次頁表5)。前年比では、福岡市で「高速バス (▲10.9 P)」北九州市で「JR (▲20.3 P)」が低下しており、乗用車を利用する様子がかがえる。

表5. 県外九州5市への交通手段 (単位: %)

交通手段	福岡市	北九州市	大分市	熊本市	鹿児島市
乗 用 車	67.0	58.8	91.0	89.9	89.8
	56.1	55.0	89.3	85.4	84.7
高速バス	10.2	14.7	-	4.0	2.0
	21.1	5.0	2.7	2.1	5.9
J R	5.7	14.7	7.0	5.1	7.1
	1.8	35.0	8.0	8.3	5.9
飛 行 機	13.6	-	-	-	-
	14.0	-	-	-	-
B & S (※)	2.3	5.9	-	-	-
	3.5	5.0	-	-	-

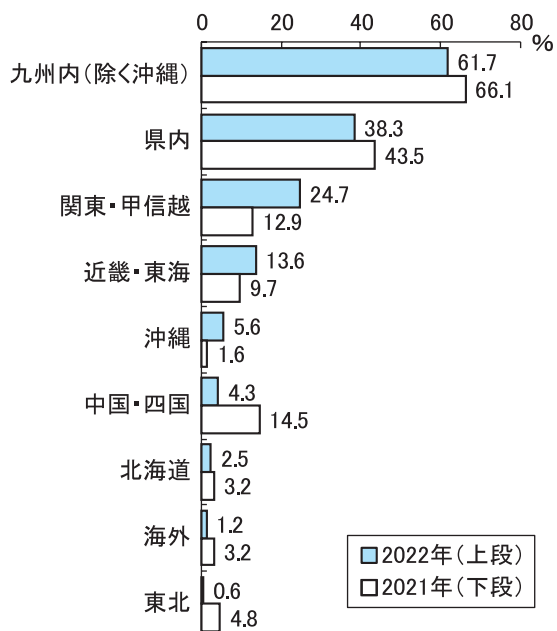
回答者数 100 人 ※上段:2022年 下段:2021年
 ※「B & S みやざき」の略称。Bus & Shinkansen の頭文字で、博多駅～新八代駅(熊本)～宮崎駅間を新幹線と高速バスで運行する

5. 今後の旅行・レジャーの行先 (複数回答)

「九州内」が最多

今後の旅行・レジャーの行先は、「九州内(除く沖縄)(61.7%)」「県内(38.3%)」が多いものの、前年比それぞれ低下した。「関東・甲信越」「近畿・東海」は前年比上昇し、遠方の地域にも興味を示す傾向がうかがえた(図10)。

図10. 今後の旅行・レジャーの行先(複数回答)



6. 現在の生活状況

全体では「変わらない」が62.6%

現在の生活状況は、全体では「変わらない(62.6%)」が最も多く、「悪くなった」は28.1%、「良くなった」が9.4%で、生活状況DIは▲18.7となった(表6)。

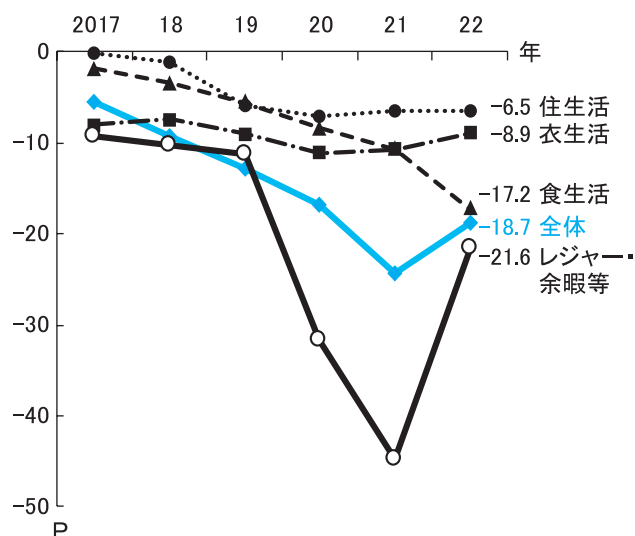
前年比では、「全体」のDIが5.6P改善した(図11)。項目別では、「レジャー・余暇等(▲21.6)」が、コロナのワクチン接種の進展と、5月の大型連休中の行動制限緩和等から23.1P改善するなど、マイナス幅の縮小がみられた。

表6. 現在の生活状況 (単位: %、P)

生活状況	良くなった	変わらない	悪くなった	DI
全 体	9.4	62.6	28.1	▲18.7
	6.1	63.5	30.4	▲24.3
衣生活	7.1	76.9	16.0	▲8.9
	4.8	79.7	15.5	▲10.7
食生活	8.8	65.3	26.0	▲17.2
	9.4	70.6	20.1	▲10.7
住生活	7.8	77.9	14.3	▲6.5
	7.1	79.3	13.6	▲6.5
レジャー・余暇等	7.8	62.8	29.4	▲21.6
	5.0	45.3	49.7	▲44.7

※上段:2022年 下段:2021年

図11. 生活状況DIの推移



7. 現在の物価状況

現在と前年の物価を品目別に比較した状況は、全ての品目でDIがプラスとなった。（表7）。

品目別では、「食品（生鮮食品を除く）（+79.0）」が最も高く、「光熱水道費（+65.1）」「交通費（+58.7）」と続いた。穀物価格の上昇、原油等資源価格の上昇、為替レートの円安などから物価も上昇傾向にあり、前年比では「交通費（+52.9 P）」「食品（生鮮食品を除く）（+47.1 P）」「外食費（+47.1 P）」等の上昇が目立った。

表7. 品目別物価状況（単位：%、P）

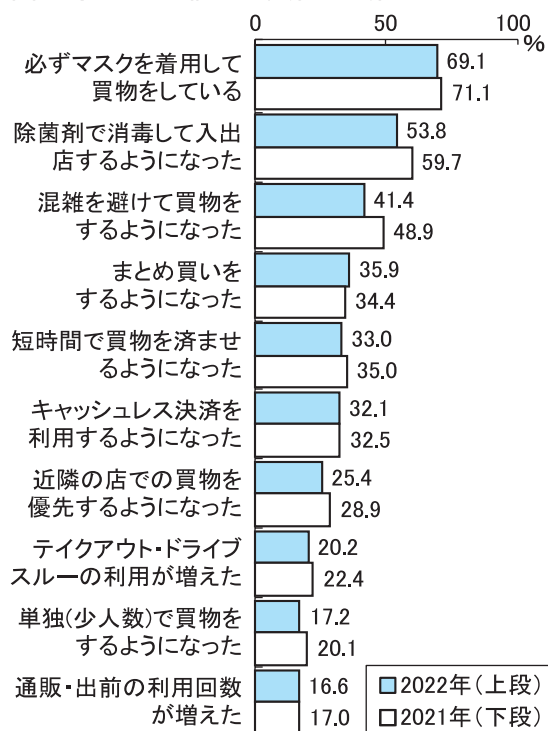
品目	物価	高くなった	不変	安くなった	DI	
					今回	前年
食品(生鮮食品を除く)	80.2	18.6	1.2	79.0	31.9	
光熱水道費	67.5	30.1	2.4	65.1	34.2	
交通費	61.9	34.9	3.2	58.7	5.8	
耐久消費財	52.8	45.7	1.5	51.3	15.4	
日用品	53.0	44.1	3.0	50.0	20.2	
嗜好品（酒等）	42.9	50.6	6.5	36.4	13.8	
家具・家事用品	33.3	61.6	5.1	28.2	5.8	
外食費	41.8	44.4	13.7	28.1	▲19.0	
教育費	31.1	63.3	5.6	25.5	10.8	
医療費	25.6	72.3	2.0	23.6	11.1	
被服・履物	28.2	65.6	6.2	22.0	▲7.1	
保険料	28.2	65.6	6.2	22.0	11.5	
娯楽・趣味	31.9	57.2	10.9	21.0	▲3.8	
通信費	31.2	57.2	11.6	19.6	8.6	
住居費	17.9	80.1	2.0	15.9	6.2	

8. コロナ禍での買物の変化

コロナ禍での買物の変化では「必ずマスクを着用して買物をしている（69.1%）」、「除菌剤で消毒して入出店するようになった（53.8%）」など衛生に気を配る行動が上位に挙がった（図12）。

前年比では「混雑を避けて買物するようになった（▲7.5 P）」「除菌剤で消毒して入出店するようになった（▲5.9 P）」が低下した。

図12. コロナ禍での買物の変化



9. まとめ

今回の調査は、前年並みのボーナス支給額を見込む回答が多く、使いみちは、老後の生活のために貯蓄する回答が多かった。買物は「衣料品」「日用品のまとめ買い」、買物先は「通販・ネット販売」が多かった。旅行・レジャー先では、遠方の地域の回答が増えた。物価は「食品」「光熱費」「交通費」など原材料や資源の高騰による影響をうかがわせる回答が増えた。生活状況DIは「レジャー・余暇」の大幅な上昇から前年より改善した。今後とも、物価の上昇傾向が予想され、生活防衛型の消費が続くと考えられる。（勝池）